

【別紙 2】 三重交通事例詳細

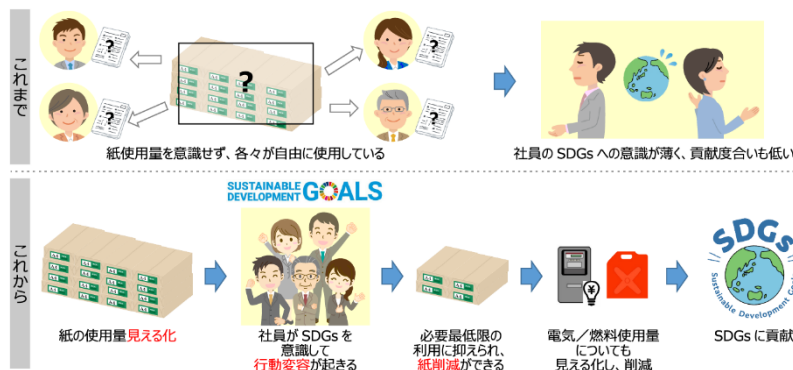
■ 実証実験の内容

三重交通グループでは中期経営計画で DX への取り組みおよび環境への貢献をめざしています。

その中で三重交通では環境貢献への取り組みの一環として、紙削減に向けてビジネスチャットと RPA ツールを活用し、社員の意識改革を行っています。

従来、複合機ごとに個人の紙利用枚数データは蓄積されていましたが、機種ごとに収集方法が異なることから、会社全体での使用量把握や組織間での利用枚数比較は実施できていませんでした。

本実証では WinActor(RPA ツール)を利用し、まずは本社組織の各複合機の紙利用枚数データの収集に加え、組織ごとの使用量および前月との比較を自動的に一覧化し、elgana (ビジネスチャット) を利用して、各組織の長に対して通知を行える形式にしました。



■ 利用者の声 (一般管理担当部署)

elgana で通知が来るため、能動的に確認しなくても紙の実際の使用量が、他部署との比較および前月との比較や推移が見えることで、漠然と紙の削減を進めるのではなく、具体的な削減目標を立てて取り組むことができるようになりました。

今後は、紙だけではなく、電気やバスの燃料使用量等の環境保全に関して進めている他の取り組みにも展開する価値を感じました。

■ 本実証推進者の声 (情報システム主管部署)

本実証を通じて、上記以外にも他の 2 つの業務でも検証を行い、稼働削減を確認できました。

1 つ目は、情報システム部にて WinActor の管理・操作をする業務です。elgana を使うことで、利用者が遠隔から WinActor を操作できるようになり、PC 前に滞在し WinActor の管理・操作をする稼働面の削減だけでなく、完了するまで待たなくてはいけないという心理的負担も軽減することができ、リモートワークもできるようになりました。

2 つ目は、複数の部署が、人やシステムを介して都度判断する必要があり、円滑な運営ができていなかった業務です。elgana を介して、人と WinActor とシステムが連携することで、elgana からの通知をもとに、人が遠隔でも判断・指示できるようになりました。これにより人の判断を含めた業務の円滑な運営が実現できました。

本実証を通して、ビジネスチャットと RPA ツールの連携による業務の DX 効果を確認できたことから、今後も他業務の DX 化を推進し、効率的な業務運営をめざします。